

## 教職員のコーナー

### ボランティアの心

村上里美

5月中旬、釜山から船で50分ほどの巨済島、愛光園を訪問した。本年度本校の中学部2年生の二人が、この施設でボランティアの体験学習をするためだ。

愛光園は、海をのぞむ山の中腹にあり、園長は、アジアのノーベル賞と言われる「マグサイサイ賞」を受賞されているキム・イムスン(金任順)先生。1952年に韓国動乱の戦災孤児達の家として開設。1979年に知的障害児達の園に切り替えられ、現在は、障害児学校、保養作業所、同園の高齢化する人のグループホームなどがある大きな社会法人施設である。

下見の時には、園長先生にお会いすることができた。80歳を過ぎておられるが、志をもったパワーにあふれ、人を引きつける力をもったオーラが感じられる方だ。大きな施設の隅々まで心を配り、施設の食事のため自分で野菜を育て、洗い、料理をなさるといふ。月の半分は、講演会や海外との交流などで国内、世界を飛び回っていらっやるそう。どこからその力が生まれてくるのだろう。一緒にいる私も元気をもった気がする。不思議な力をもった先生だ。

今回、私は、中2の有田澗奈さんと重症障害者120名の方が暮らしている療養施設「たんぼぼの家」で、佐々木亮佑君は、知的障害者110名いる「鳥の巣の村」での活動を行うことになった。今回は、たんぼぼの家での活動を振り返ってみたい。

AM7:15 たんぼぼの家に向かう。一緒にいる澗奈さんも緊張している様子。ドアを開けると中にいた、人なつこい障害をもった方が職員室まで案内してくれ。心が和んだ。職員室に入ると、まず朝食をと言われる。職員が食事をする部屋で、食べる分をとる食事のスタイルだ。周りを見回るとみんなものすごい量をすごい速さで食べている。澗奈さんと感心しながら食べた。職員も子ども達と同じものを食べる。

AM7:30 自分の食事をすませるといよいよボランティア開始。食事の介助だ。一人ずつ、スプーンで口に運ぶ。一人終わるとまた次の人へ。40分の間に4人の食事と歯磨きを介助した。澗奈さんも初めての体験ながら自分の力で頑張っていた。(こちらの先生方は、私を生徒につく教師という立場ではなく、一人のボランティアとして迎え入れてくれたようだ。)ここでおむつを取り替える。紙のおむつは、費用がかかるため布のおむつを使っているそうだが、さすがに澗奈さんはやらず、私だけだったが、体に硬直がある大人の体の向きを変えき、ちんとおむつをすることは、とても難しかった。このあと全職員の会議がある。こ

は、一人ずつが聖書を1節ずつ読み、静かに時が流れていた。

AM9:30 遊技治療のクラスと一緒にやらせていただく。手指訓練、風船を使った運動、機能訓練、マッサージなどが行われていた。澗奈さんは、もっと韓国語が話せたら、コミュニケーションがとれたのに。と少し残念そうだった。

AM11:30 職員の食事。そのあとは朝食と同じように食事の介助。ここでは、障害が重くてもミキサー食にはせず、きちんと一品ごとに別々になっている。食べ物の味を大切にすることや咀嚼のことを考えた園長先生の方針なのだそう。

PM1:30 洗濯物を取りこみ、たたむ。大量のおむつやタオル、服。1回が100枚以上。これが夕方までに3回続く。おむつは、すぐに使えるよう、ビニール、布などをセットする。澗奈さんも私もたたみづけたが、洗濯の山の中にしばらくうまっていた。

PM3:00 小さい子ども達としばし遊ぶ。障害をもって生まれたが為に捨てられたり、身寄りがなかったりする子がほとんどだそう。韓国の社会の厳しさがうかがえた。小さい子と遊んでいる澗奈さんも笑顔がいっぱい。また山のような洗濯物が

PM5:00 職員の夕食。夕食の介助。澗奈さんの手つきもよく慣れてきた。このあと寝るためにパジャマに着替える。寝たきりの人の着替えは、難しい。澗奈さん苦戦。

PM6:00 1日目のボランティア終了。二人で今日1日を振り返りながら、そして、ほっとしながら部屋へ戻った。亮佑君も部屋の掃除や、配膳、一緒に遊ぶ等の活動をしたそう。なかなか慣れるまで大変だったようだ。翌日も半日、ボランティアは続いた。

この体験学習を通して、二人の心に何が残ったのだろう。「最初は、少しこわくて壁があったけど触れ合っている間になくなった。」「大変だったけど笑顔がみられてよかった。」などの感想が聞かれた。中学生なりに人間として何か大切なものを感じてくれていたらしいと思う。

今回のボランティア活動を終えて思うこと。自分自身も一度きりの活動にせず、これをきっかけとして少しずつでも続けていくことが大切なのではないだろうかということ。自分の意志で地域社会のために役立っていったらいい。ボランティア活動を通して、自分も成長していったらうれしい。無理をせず、謙虚に相手を尊重して自分も楽しみながら活動できたら素晴らしい。

愛光園で、たくさん元気をもらった。ぜひ、またお手伝いに行けたらと思う。